



大阪大学 OSAKA UNIVERSITY
全学教育推進機構

Center for Education in Liberal Arts and Sciences

ご挨拶

大阪大学の歴史は1931年創立の旧大阪帝国大学にはじまりますが、全学教育推進機構の沿革は、1921年創立の旧制大阪高等学校、1926年創立の旧制浪速高等学校の系譜を引くものです。官立の旧制大阪高等学校は大阪市に設立され、フランス語を専修とする理科丙類は同時創設の旧制東京高等学校との2校のみでした。大阪府立の旧制浪速高等学校は豊中市に設立され、この校地が現在の大阪大学豊中キャンパスとなっています。この2校とも、のちに日本を代表して活躍するような学者、政治家、実業家を輩出しています。阪大坂を登り切ったところで見えてくる大阪大学会館（旧イ号館）は、本学最古の校舎で、1928年建築の浪高本館を改修したものです。この建物は大阪大学に移管されたのち旧教養部の建物として使用され、その後共通教育本館となった歴史があります。旧制浪速高等学校では社会や自然の实地観察を重んじる校風があり、それは大阪大学の全学共通教育に引き継がれています。

大阪大学は、大阪の地に根づいていた懐徳堂・適塾以来の OPEN MIND な市民精神を有し、時代を支え、「いのち」に向き合い社会的課題に取り組む有能な人材を輩出することに、貢献していきます。また、世界のグローバル化が進み、「答えのない課題」に取り組むことが求められている現在、教養教育の重要性は否が応でも増していると言えます。全学教育推進機構は大阪大学の教育目標である「教養」「デザイン力」「国際性」を涵養し、このような先行き不透明の時代に対応できる人材の育成をめざします。

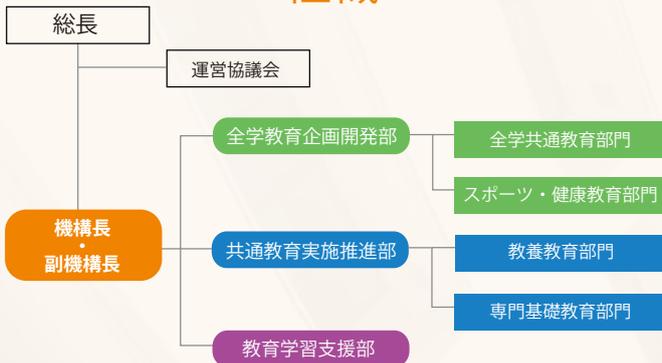


全学教育推進機構 機構長 進藤修一

全学教育推進機構とは

大阪大学全学教育推進機構は、大阪大学の全学を対象とした教育プログラムを企画・運営する組織です。学ぶ姿勢を身に付け、国際性豊かな教養と専門への基礎をはぐくむ低学年向けの科目から、分野の壁を超えて視野を広げる高学年・大学院生向けの横断型教育まで、多様な教育プログラムを企画・運営しています。

組織



2022年4月1日時点

沿革

- 1949年 旧制大阪高等学校を一般教養部南校、旧制浪速高等学校を一般教養部北校として包括
- 1957年 教養部に改称
- 1994年 教養部の廃止に伴い全学共通教育機構が発足
- 2004年 大学教育実践センターに改組
- 2012年 大学院横断教育を加え全学教育推進機構に改組
- 2014年 学際融合教育研究センターと統合
- 2015年 高大接続教育を拡充
- 2016年 教育学習支援センターと統合、現在の3部体制となる
- 2017年 高大接続オフィスを高等教育・入試研究開発センターへ移管
- 2022年 横断教育部門を国際共創大学院学位プログラム推進機構へ移管、教育学習支援部の一部をステューデント・ライフサイクルサポートセンターへ移管

本機構のミッションは、教育プログラムの企画開発、実施推進、支援の三者に分けられます。第一のミッションは全学教育企画開発部が担います。大学教育の実践的な研究を行い、大学教育の質の向上および社会に求められる人材を育成する機能の強化を図ります。第二のミッションは共通教育実施推進部が担い、大阪大学全学の教員によって、教育プログラムが実施されます。第三のミッションは教育学習支援部が担います。学生の主体的学びへの支援、ならびにその責任をもつ教員への教育方法の改善の支援を行っています。

全学教育企画開発部

本学の教育目標である「教養」「デザイン力」「国際性」を身につけた学生を育成するため、最高水準の教育の企画開発を行います。大学教育の理念とあり方に関する実践的研究を進めるとともに、学生の学習状況などを不断に調査することで、各部局と連携しながら国際標準に対応した授業・カリキュラムの改革やプログラム開発を行います。



部長 宇野勝博

全学共通教育部門

国内外の先進的教育プロジェクトおよび実践の調査研究等にもとづき、最高水準の教育を目指した全学共通教育のあり方について検討します。主体的学習能力獲得につながる全学共通教育カリキュラムの改善・開発、正課教育における学習達成状況の調査研究に基づく履修指導の充実、授業改善のためのアンケート等による授業の質向上の推進、ならびに高学年向け高度教養教育プログラムの企画・立案を行います。

スタッフ

宇野勝博 浅野建一 (部門長) 大岡宏造 金英子 田中冬彦
中村征樹 堀一成 金森サヤ子 坂尻彰宏 北沢美帆
坂口愛沙 柿澤寿信* 田川千尋* (*兼務)

取り組み

■学生による授業評価アンケートの実施

学務情報システム KOAN を利用し、すべての対象授業について授業評価アンケートを実施し、授業改善に役立てています。

■クラス代表懇談会の開催

1年次生のクラス代表と本機構教職員・本部関係教職員との懇談会を年2回実施しています。授業・カリキュラムや学習環境など、全学共通教育にかかわる問題全般についてクラス代表から学生の意見・要望を聞き、より充実した共通教育の改善のために活用しています。

■少人数型教育・対話型教育のさらなる拡充

学術的文章を書くための技術を少人数で学ぶ「学術的文章の作法」や、課題発見・設定から問題解決までの全プロセスに学生が主体的に取り組む「Discovery Seminar: はじめてのリサーチ」など、対話型・少人数型教育のさらなる拡充に取り組んでいます。また、高校と大学の学びをつなぐ高大接続教育の拡充にも取り組んでいます。

スポーツ・健康教育部門

健康・スポーツ教育科目に関する教育プログラムの企画・開発を行います。体力ならびに健康の維持・増進に加え、積極的な行動力を育む身体教育の開発と実践を行うと同時に、学生の健康知識の習得とライフスタイルの向上を促す教育・研究を推進します。また、学生、教職員等を対象としたスポーツ・レクリエーション活動の啓発ならびに支援・指導を行います。

スタッフ

七五三木聡 (部門長) 坂東隆男 藤田和樹 島本英樹
小見山高明

取り組み

■ヘルスリテラシー型健康教育の実施

健康・スポーツ教育科目の授業においてヘルスリテラシー型健康教育を推進し、その教育効果を最大化するための様々な試みを実施しています。センシング技術や ICT、教員の専門研究を活かした“学生の身体・心理・認知機能の定量評価”による“客観的実態把握”と“授業効果の見える化”、科学的データ分析による“エビデンスに基づく教育(学生へのフィードバックと授業改善)”、学生が自身の諸機能に問題を見出し、解決対象として課題を設定し、その改善に取り組む“自己課題解決型教育”など、身体性教育のあるべき未来像を見据えた教育実践および教育研究活動を実施しています。

■スポーツ・運動教室等の開催

剣道、バレーボール、ノルディックウォーキング、テーピング講習会など、学生、教職員、地域住民を対象とした各種スポーツ・運動の大会や教室を開催しています。



外国語学部の頃



文学部の頃



基礎工学部の頃



理学部の頃



医学部の頃



歯学部の頃



人間科学部の頃



法学部の頃



経済学部の頃



薬学部の頃



工学部の頃

阪大
「ワニ博士」

共通教育実施推進部

全学共通教育のカリキュラム策定を行うとともに、授業実施・運営上の業務を実施します。各科目の実施にあたって指導的および調整的役割を果たすため、次の2部門が置かれています。

教養教育部門 教養教育において、学部入学直後から主体的に学ぶ態度を身につけ、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、知性・感性と身体との調和を図り、豊かな人間性を育むことを目標とし、教養教育科目を実施するために指導的および調整的役割を果たす。

専門基礎教育部門 専門教育につながる基礎的な概念や方法を幅広く修得・理解し、多様化している社会変化・科学技術の進歩に対応できる能力を養うことを目標とし、専門基礎教育を実施するために指導的および調整的役割を果たす。

各部門には分野ごとの部会が置かれ、全学共通教育の実施運営上の実務、適正なカリキュラムの設定、授業担当教員のコーディネート等を行うとともに、授業の検証と改善の取り組みを推進します。併せて、TA（ティーチング・アシスタント）・TF（ティーチング・フェロー）に関する管理、運営を行います。



部長 上田良夫

教育学習支援部

「教養」「デザイン力」「国際性」を備えたグローバル人材の育成に向けて、主体的な学びによる教育の高度化を全学的に実現するため、組織化された教育学習支援環境の下で教育支援機能、キャリア開発機能、学習支援機能の強化を推進します。全学教育及び専門教育における、カリキュラムや教員の授業等に関する教育方法の改善や、ICT活用教育、学生の自立的学習の支援等の企画・立案ならびに各種支援業務を行います。また、国内外の先進的教育プログラム及び実践の調査研究等に基づき、全学教育における教育学習支援のあり方を考究します。



部長 楠本真二

スタッフ

山口和也 村上正行 佐藤浩章 竹村治雄* 岩居弘樹*
浦西友樹* 家島明彦* 浦田悠* 権藤千恵* 金賢真*
(* 兼務)

取り組み

■大学教職員向け教育能力開発研修 (FD, SD) の企画・実施
「シラバスの書き方」「アクティブラーニングを促す方法」「オンライン教材」などをテーマとした、授業改善のためのセミナーやワークショップを年間約 50 回提供しています。また、例年9月に実施している全学FDフォーラムの企画運営も行っています。

■将来大学教員を目指す大学院生向け授業（プレFD）の実施
大学院生向けの高度副プログラムとして、「未来の大学教員養成プログラム」(FFP: Future Faculty Program) を 2014 年度より開講しています。プログラムでは、大学で教えるために必要な基本的な知識や技能を学ぶことができます。また、修了要件を満たすことで公式の修了証が交付されます。

■オンライン教材の開発
MOOCs (Massive Open Online Courses: 大規模公開オンライン講座) を主に edX から配信しています。撮影・編集機材を備えたスタジオで教材作成を行っています。

研究活動 高等教育研究

大阪大学における高等教育に関する研究成果および教育実践報告の発表の場として年1回刊行する学術誌です。高等教育に関する学術論文、大阪大学における教育活動に関する報告レポートを掲載しています。



バックナンバーや投稿規定は機構 HP に掲載しています。その他の活動や最新情報が掲載されたニュースレターもぜひご覧ください！



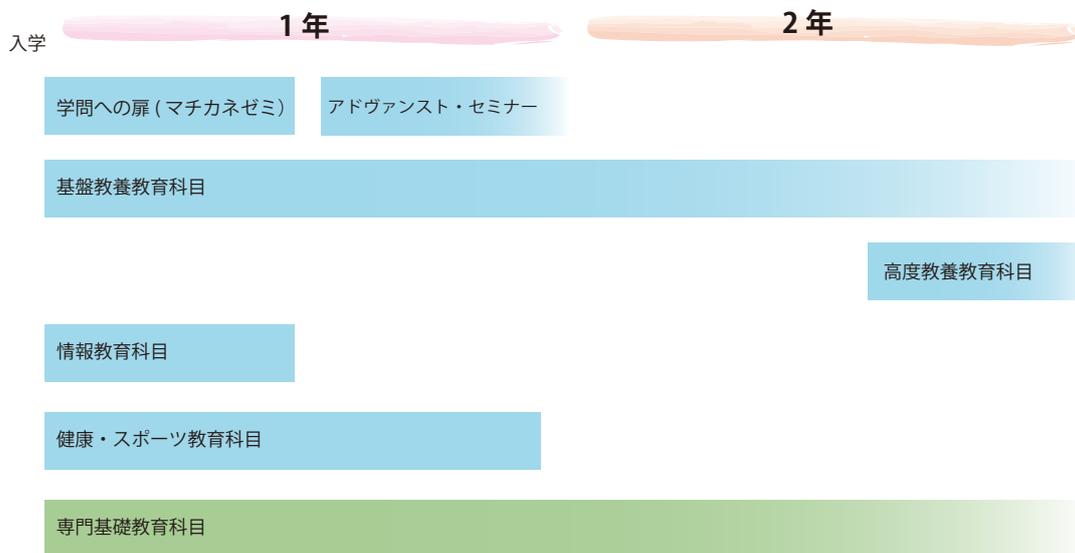
アクティブラーニング教室の整備

ICT 支援型協働学習教室 (HALC: Handai Active Learning Classrooms)

さまざまな学習シーンに対応可能な新しい教室を運用しています。稼働式の椅子、机、ホワイトボードを配備するとともに、窓側以外のすべての側面の壁はプロジェクタを投影可能な全面ホワイトボードであり板書と投影を融合した授業が可能です。教員及び学生のパソコン等からどこにでも投影可能な4面マルチスクリーンを設置しており、常設の貸出用タブレット (iPad) を使った教員・学生1人1台のICT利用環境を実現しています。



大阪大学『全学共通教育（1～2年次）』概要



- **学問への扉「マチカネゼミ」** [1年次 春～夏学期]
大学における学びの基礎科目。興味ある内容を学ぶ中で、異分野の学生とも接し、異なったものの見方や課題解決の道筋を意識することを目的とします。また、この科目においては、レポートやプレゼンテーションなどのアカデミック・スキルの指導などを行うことによって、学生の発信力を高めることを目指します。新入生全員が受講する、少人数クラスによる科目です。
- **アドヴァンスト・セミナー** [1年次 秋学期以降]
「学問への扉」を履修した学生を対象とし、1年次秋学期以降に開講される科目で、フィールドワーク、インターンシップやセミナー等の形態をとる、学生の主体的な学習を重視したアクティビティ科目です。
- **基盤教養教育科目** [1年次 春学期以降]
大学生としてふさわしい知性を身につけるための教育課程の始まりに位置づけられる科目です。学問の最先端で生み出されている研究成果を専門以外の学生にも分かりやすく講じ、知的営みの魅力や新たな知の地平を切り開く感動を伝え、教養を広げるとともに、知的世界に誘うことを目的としています。また、現代社会が抱える諸問題に関心を抱かせ、それらの解決にかかる意欲を湧かせるとともに、そのために必要となる基礎的素養、知識、能力の修得を目的とします。
「基盤教養教育科目」の区分として、「人文科学系科目」「社会科学系科目」「自然科学系科目」及び「総合型科目」が設けられています。学部によって、基盤教養教育科目のうち各学部の専門に関連する科目を「専門教育科目」として指定している場合があります。
- **高度教養教育科目** [2年次 秋学期以降]
専門分野以外にも視野を広げ、「複眼的」かつ「俯瞰的」な視点を持った人材を育てること、及び修得した知識を社会における課題解決に応用できる能力（高度汎用力）を養成することを目的としている科目です。
※その他、「コミュニケーションデザイン科目」、各学部が開講する専門教育科目のうち他学部学生の履修を認める科目なども履修可能な場合があります。
- **情報教育科目** [1年次 原則春学期]
高度情報化社会の構成員としての大学生にふさわしい、情報社会・情報科学の原理、本質、価値、可能性、限界等を理解し、これを使いこなす対応力を修得することを目的とします。
- **健康・スポーツ教育科目** [1年次 春～夏、秋～冬学期]
健康と体力、そして身体運動に関する幅広い知識を修得し、自主的、合理的に生涯にわたって自身の健康管理と運動、スポーツ活動を行うための教養と実践力を学ぶことを目的として開講する科目です。

専門教育系科目

• 専門基礎教育科目

各学部が規定する専門教育系科目として、専門分野の基盤となる学問を学びます。
「統計学」「数学」「物理学」「化学」「生物学」「地学」「図学」の各分野からなっています。

※このほかに国際性涵養教育として、マルチリンガル教育科目（マルチリンガル教育センター開講）を提供しています。

学習環境の整備

スチューデント・コモンズ,サイエンス・コモンズ

大学の構成員が共有し、会話を促進する空間の整備を進めています。スチューデント・コモンズにはカフェや本棚、プロジェクタ等が設置されており、学生同士、あるいは学生と教職員との対話、学生・教職員企画のイベント、留学生との交流、その他様々なイベントに利用されています。サイエンス・コモンズでは、すべての学生が科学に触れることができるよう、実験設備や機器の整備を進めています。自主学習や研究に自由に使うこともできます。



コモンズ2階には授業や学内のイベントに使用できるセミナー室を設置。壁面ホワイトボードや可動性の高い机・椅子を導入し、さまざまな授業の形態に合わせた自由なレイアウトが可能となっています。



コモンズ1階の2部屋、カルチエ&カルチエ・ミュルチラングは中庭に面したオープンなスペース。普段は学生をはじめとする大学構成員の食事や自主学習、グループワークの場所として活用されています。天気の良い日には、外のテラスを活用した、開放的なイベントの開催が可能です。ミュルチラングでは、授業期間中の昼休みに、日替わりで英語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、スペイン語、フランス語などのネイティブの留学生による多言語カフェを開催しており、気軽にコミュニケーションを楽しむことができます。

全学教育推進機構アクセス



全学教育推進機構
フロアマップは
こちらから



最寄り駅

阪急電車宝塚線 石橋阪大前駅 東へ徒歩約15分
大阪モノレール 柴原阪大前駅 徒歩約7~15分

■大阪大学全学教育推進機構

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-16
Tel.06-6850-5605 Fax.06-6850-5613
E-mail : zenkyo-soumu@office.osaka-u.ac.jp

<https://www.celas.osaka-u.ac.jp/>

2022年12月発行

